

学科 学年	3年全	科目 分類	国語 Japanese III	講義 演習 必修	通年 2単位	学習教育 目標 1-A~E	担当	鈴木邦彦 Suzuki kunihiko
概要	この世は、大声でわめく者たちのみが勝ち残り、低い声でしかつぶやくことのない心優しい人びとが、とり残され報いられないまま見捨てられるという構造に満ちている。その構造を打ち破るために文学はある。国語という教科の根本は、低い声で語られる優しい思いとほんとうのことを聞きのがさず、しかととらえ、その人の気持ちをわかることにある。そのために、詩や俳句や短歌や随筆や小説を浴びるように読み、文学にどっぷり漬かることが求められる。一年間文学にどっぷり漬かる。これが今年の国語の授業である。							
科目目標 (到達目標)	できるだけ多くの詩、俳句、短歌、随筆、小説を読む。四,五,六月は、読むことは発見であるということを理解してもらうため詩、俳句、短歌など韻文を中心に扱い、詩の行間や省略されている部分にひそむ作者の思いを発見することに主眼を置く。七月は作文の書き方について講義し、夏休み中の宿題、井上靖の作品感想文に備える。九月以降は小説を読む							
教科書 器材等	教材は、プリント及び文庫本。							
評価の基準と 方法	作文による年四回の定期試験と夏休みの宿題ならびに平常の授業態度によって評価する。							
関連科目								
授業計画								
第1回	詩を読む	(金子みすず,八木重吉を手はじめに中也、犀星、白秋、春夫、朔太郎、藤村の詩をプリントによって読む)						
第2回								
第3回								
第4回								
第5回								
第6回								
第7回	俳句を読む							
第8回								
第9回	短歌を読む							
第10回								
第11回	作文の書き方							
第12回								
第13回								
第14回	随筆を読む							
第15回								
第16回								
第17回	小説を読む	(川端康成、井上靖、太宰治、夏目漱石、芥川龍之介、三島由紀夫、山本周五郎、松本清張などを文庫本によって読む。)						
第18回								
第19回								
第20回								
第21回								
第22回								
第23回								
第24回								
第25回								
第26回								
第27回								
第28回								
第29回								
第30回								
オフィス アワー								
備考								